

Co.COM

広島の生協

平和とより良き生活のために

NOV.2018
VOL.70

広島県生活協同組合連合会
発行 2018年11月20日

特集Ⅰ：西日本豪雨災害支援活動報告 … 1-4

- ・西日本豪雨義援金の贈呈
- ・災害支援活動報告

特集Ⅱ：第46回広島県生協大会

- ・第46回広島県生協大会 5
- ・広島県知事表彰
- ・「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い … 6・7
- 記念講演「記者からみた核兵器なき世界の実現ーー」
中国新聞社記者 金崎由美氏
- 会員だより・トピックス 8・9
- ・日立造船因島生協 協同組合まつり
- ・グリーンコーブ試食会
- ・広島医療生協 協同ふれあいまつり
- ・介護事業セミナー
- ・消費者のつどい・介護の日フェスタ

- 事務局だより 10
- ・広島県庁からのお知らせ
 - ・消費者ネットからの情報
 - ・理事会報告・組織平和委員会報告

『ヒバクシャ国際署名』に思いを寄せて … 11

第2回：広島県原爆被害者団体協議会 理事長

佐久間邦彦 氏

- ・編集室から

表紙写真【木守り】晩秋・初冬の野山を歩くと、畠や農家の庭先に紅葉した柿の木を見ることがある。木の枝には色づいた実が数個残されているのを見かける。これは、来年もよく実るようというまじないと願いとして木に取り残しておく果実で「木守り」と呼ばれている。晩秋の一つの風情となつて目を楽しませてくれる。



木
守
り

広島県生協大会

第46回広島県生協大会

西日本豪雨災害

義援金贈呈

湯崎英彦様



組合員の心を被災地に

10月17日に開かれた第46回広島県生協大会では、県知事表彰に続いて、平成30年7月の西日本豪雨の被災地広島県に対して日本生協連から義援金の贈呈が行われた。

この度の豪雨災害に対しても、日本生協連は、全国の組合員

に呼びかけ、5億8,400万円の義援金を集めることができた。集まつた義援金は被災各県ごとに分配。広島県には1億5,568万円が、この大会において日本生協連新井ちとせ副会長から、湯崎広島県知事に贈呈された。

第46回広島県生協大会において広島県に災害義援金を贈呈する日本生協連新井ちとせ副会長（写真左下）義援金へのお礼の言葉を述べる湯崎広島県知事（写真左上）



西日本豪雨被害に直面して『報告』



被災地の様子

なんとしてでもお役に…

未曾有の災害と広範囲の被害

西は九州北部、四国・中国地方（広島県・岡山県・愛媛県）、東は近畿、中部地方まで、これまでにない広範囲に被害を及ぼした「西日本豪雨」。8月3日付の新聞朝刊では、死者225人、重傷68人、軽傷336人、床上・床下浸水3万4869棟、断水世帯26万3381戸、鉄道の運転休止115路線という未曾有の災害となつたことが報道されている。

こうした災害に対応して、広島県生協連は、災害発生後、直ちに緊急の対応を行った。具体的な対応は、先月号の特集でもお知らせした。そこでここにもう一度その過程を振り返り、それ以後の広島県生協連の豪雨災害支援活動を報告する。

広島県生協連の対応と援助活動

西日本豪雨災害に対して、広島県生協連は迅速な対応を行った。まことに、広島県との緊急物資協定に基づき、7月8日から広島県災害対策本部に連絡員（流通専門家）を1名、10日間派遣。支援物資や輸送の手配を広島県トラック協会と連携を取りながら、広島県各市町から要請のあつた支援物資を届けた。併せて広島県社会福祉協議会からの要請に、災害ボランティアセンター（呉市三原市）へ水80000本（500ml入）届ける。また、広島市社会福祉協議会から要請を受け、7月15日から広島市災害ボランティア本部に職員1名を派遣。派遣職員は、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議に参加し、広島市を中心とした各地域の被害状況や支援状況について情報収集を行つた。

7月14日には、日本生協連、生協ひろしま、コーポCSネット、広島中央保健生協が被害状況の確認と今後の対応、それぞれの組織の役割について協議を重ね、「コーポ災害支援情報センター広島」の設置を決定した。そこでは、広島市災害ボランティア本部のボランティアセンター運営スタッフの派遣、看護師派遣依頼について協議。その後日本医療福祉生協連も交え、看護師の派遣について検討。日本医療福祉生協連から全国の医療生協に協力を呼びかけ、7月26日より「酷暑によるボランティアの熱中症予防、健康管理」を目的に、毎日2名ずつ看護師を派遣した。ボランティアに看護師を派遣する取り組みは初めてであり、ボランティアセンター、ボランティアからも好評だった。



広島県災害対策本部

協定に基づく連絡員の派遣

「なんとしてでも、被災された方、被災された地域の皆さんのお役に立ちたい。」

そんな思いで、広島県生協連は、被災された方が一日でも早く元の生活に戻れるよう最大限の支援に取り組んだ。支援にあたり、広島県や広島市、会員

生協、日本生協連・医療福祉生協連、支援団体等、行政や諸団体と連携した活動をまず心がけた。広島県生協連の呼びかけに日本生協連、医療福祉生協連が率先して協力。手始めに、全国

広島県災害対策本部へ職員を派遣！

広島県生協連は緊急支援物資を手配するため、広島県災害対策本部へ連絡員（流通専門家）として職員1名を派遣した。これは、広島県生協連が広島県と締結している災害時物資協定に基づくもので、この度の災害が初出動となつた。

県の災害対策本部では、県内の各市町からの支援物資要請を担当の県職員が集約し、物資を手配。まず広島県の備蓄倉庫から物資を搬送。本部担当者は、備蓄倉庫にない物や、不足する物に関して、物資協定を結んでいる各企業・団体に要請する。その際、「生協さんで手配できますか?」という相談があり、生協で手配可能な物は即刻手配。しかし、手配が難しい物（スコップや一輪車等）は「〇〇

災害支援活動報告

西日本豪雨被害に直面して 『報告』



グリーンコープ生協ひろしまの「生活応援セット」



生協移動販売車を利用する住民（呉市安浦地区）



受付応援スタッフ



ボランティアに説明する生協運営スタッフ



全国から集まった生協職員と組合員（オリエンテーションの様子）



ボランティアの方に飲み物を提供する看護師

県の対策本部以外では、広島市安芸区と安芸郡坂町でボランティア活動を行った。日本生協連、医療福祉生協連を通じて、全国の生協から運営スタッフ2名、看護師2名を派遣し支援活動を行った。

派遣した運営スタッフは、ボランティアの受付やサテライトセンターの運営に携わり、看護師は被災地を自転車で回って、活動しているボランティアに声をかけて健康管理に努め、飲物を渡したり、休憩を促した。

参加した運営スタッフからは、「避難者に自身の高齢者がおられ、きめ細やかな対応が求

社さんに尋ねてみてください」といったアドバイスを行う等、流通専門家として十日間、持てるノウハウと役割を発揮した。民間からは、広島県生協連と広島県トラック協会（物流専門家）が広島県災害対策本部へ出向いた。この度の災害では、いたる所で道路が通行止めとなり、物資の輸送は困難を極めた。そこでは、トラック協会の協力をいただき連携することができた。現場からの道路情報もたいへん役に立った。この災害対応を機に、今後も運輸関係とも連携をとり、災害発生時には協力・対応していきたいと思う。

支援スタッフ・看護師を派遣

**広島県内のボランティア数は
107,469人**

今回の災害における広島県内ボランティアの数は、107,469人（二〇一八年九月末現在）。四年前の土砂災害時のボランティア参加人数4,339人を大きく上回った。ボランティア活動は、10月からは登録制で活動が続けられている。

●ボランティア活動

全国社会福祉協議会（以下、全社協）より日本生協連に対し、全国の生協へボランティア活動の呼びかけ要請があつた。

「避難者に自身の高齢者がおられ、きめ細やかな対応が求められるなかで知った教訓は、「生かし備えるしくみと枠組みを超えた連携機能の重要性」だということを、改めて痛感しました。常に「寄り添い合える社会」をどう創つて行くかなど、人ととのつながりが希薄な現代社会のなかで、生協として決して強く感じました。」

民間からは、広島県生協連と広島県トラック協会（物流専門家）が広島県災害対策本部へ出向いた。この度の災害では、いたる所で道路が通行止めとなり、物資の輸送は困難を極めた。そこでは、トラック協会の協力をいただき連携することができた。現場からの道路情報もたいへん役に立った。この災害対応を機に、今後も運輸関係とも連携をとり、災害発生時には協力・対応していきたいと思う。

められている。住民や事業者が主体となつて高齢者を守つていくような地域づくりをすることが必要だと思った」といった意見。また、全国の生協に支援を続けていただいているので、おかげで安定的な運営ができる」と言っていた。

9月15日（土）にボランティアに参加した生活協同組合しまねの小林健吾さんから、次のようなコメントをいただいた。 「被災された方の精神的・身体的苦痛はとても大きいというところを会話を通じて感じた。現場に行く大きさを感じた」「災害支援で看護師がいるのは初めて。看護師さんがいると安心ですね」と嬉しい報告があつた。

前で、当時の様子をうかがうことができました。被災された方たちも、家主の奥さんから玄関前で、當時の様子をうかがうことができました。被災された方々とのコミュニケーションができたことで、どこか心がホッこりとした自分がいました。

地震や水害など災害が多発するなかで、常に「寄り添い合える社会」をどう創つて行くかなど、人ととのつながりが希薄な現代社会のなかで、生協として決して強く感じました。」

西日本豪雨被害に直面して『報告』



ボランティア活動をする全国から集まった生協職員



生協移動販売車を利用する住民のみなさん（坂町小屋浦地区）



健康チェックの様子

安芸郡坂町小屋浦地区、呉市天応町へ移動販売車

生協ひろしまは、呉市天応町に進住宅に移動販売車を訪問させている。また、グリーンコーポ急仮設団地・坂町小屋浦雇用促進で、被災者の方々に助かっている。

●利用者からの声

「近くにお店がなくて、買い物に苦労していたので、移動販売車に来てくれて本当に助かっている。」

生活応援セットのお届け活動

グリーンコーポ生協ひろしまでは、被災された方々に「生活応援セット」をお届けした。生活に最低限必要な調味料や生活雑貨など、組合員の意見を参考に必要物資を選択し、詰め合わせ作業も組合員が行い、被災者にお届けしている。生活再建には色々な角度からの支援が必要だ。こうした生活の細かいところの支援物資は、届くことが多いので、少しでもお手伝いになればとの思いからお届けしている。

健康チェックを実施

→広島市安芸区矢野東で健康チェック！

9月28日（金）、広島中央保健生協の安芸中央支部では、被災地支援の一環として、生協ひろしまコーポ矢野東で健康チェックを行った。当日は15名の方が測定に来られ、中には、開始前

からチラシを手に持つて待つておられた方もいた。このことから、こうしたことのニーズがあることを実感させられた。

今回は被災地支援ということもあり、測定や健康相談だけではなく、被災状況の聞き取りも行つた。被害に合い、今もなお子どもさんのお宅に避難している方もおり、聴いている身では胸に詰まる思いだつた。実際にお手伝いくださった支部運営員さんからも「活気があつてよかった」「初めて健康チェックに参加して楽しかった」といつづけられた。

健康チェック後に開催した支部会議では、担当者から継続実施の提案をしたところ、「二か月に一回くらいなら開催できる」という前向きな意見があり、今後店長と相談し本格的に継続実施を検討していく。

豪雨災害の安芸郡坂町小屋浦地区で復興祭、健康体操・健康チェックに参加

秋晴れとなつた10月20日（土）、全日本民主医療機関連合会（以下、民医連・広島中央保健生協、広島医療生協、福山医療生協が参加）は、全国支援を受けながら泥出しボランティアを続けた坂町小屋浦地区で開催された、「負けんど～小屋浦復興祭子ども祭り」に参加した。

（報告：広島中央保健生協）

からチラシを手に持つて待つておられた方もいた。このことから、こうしたことのニーズがあることを実感させられた。

今回は被災地支援ということもあり、測定や健康相談だけではなく、被災状況の聞き取りも行つた。被害に合い、今もなお子どもさんのお宅に避難している方もおり、聴いている身では胸に詰まる思いだつた。実際にお手伝いくださった支部運営員さんからも「活気があつてよかった」「初めて健康チェックに参加して楽しかった」といつづけられた。

祭りでは、10時スタートの一番手の舞台出演をということと、竹本リハビリ科長による「ラジオ体操」を披露した。参加者の皆さんによる「笑いケア体操」で、広島民医連会長の佐々木先生の挨拶のあと、笑いケア道場

やスタッフも、会場いっぱいに広がつて、手足を伸ばし大きなスタートを切ることができた。健康チェックのアースには、30名が血圧や体組成の測定に来られ、被災当時のことを話していただきながら思わず涙ぐむ場面もあつた。「突然家がなくなつた。工事のめどもたたない。今の仮の住まいは2年で出なければならない。」そんな理不尽な思いを吐き出していた。そうして、この地域でも健康づくり・つながりづくりでご一緒に活動したいとお伝えした。

（報告：広島中央保健生協）

改めて、町内会長・町議会議長と挨拶させていただき、医療生協の出番だと、健康相談を担当した佐々木先生が言われた。改めて、この地域でも健康づくり・つながりづくりでご一緒に活動したいとお伝えした。

第46回広島県生協大会 『広島県知事表彰』



広島県学校生協研本理事長（写真上）、広島医療生協 齊藤専務理事（写真下）に表彰状を授与する湯崎知事



表彰された方の記念写真、左から齊藤孝司、研本正明、中能一仁の各氏と湯崎知事

広島YMCA国際ホールで開かれた第46回広島県生協大会は、広島県生協連岡村会長の主催者挨拶に続いて、来賓代表として湯崎英彦広島県知事が祝辞を述べた。生協大会はひきつづいて、県知事表彰に移った。

この県知事表彰は、消費生活協同組合法（昭和23年法律第

200号、以下「法」という）の制定70周年を記念し、法の理念にのっとって健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活組合や組合役員に対して、県知事表彰を行い、その功績をたたえ、労苦に報いるとともに、併せて組合の健全な発展に寄与することを目的とするものとなっている。

第46回広島県生協大会の表彰

対象者は、組合の健全な運営と発展が認められた1組合・3個人。組合：中国電力生活協同組合（設立平成元年 理事長中能一仁）、個人：研本正明（広島県学校生活協同組合理事長）、齊藤孝司（広島医療生活協同組合専務理事）、渡辺伸吾（中国電力生活協同組合副理事長）の3名。組織代表の中能氏、個人表彰者の研本、齊藤の各氏が壇上にあがり、湯崎広島県知事より一人一人表彰状を授与され、会場の出席者とともにその功績が讃えられ、湯崎知事とともに記念写真に納まつた。（Y）

彰せられて…

広島県知事 表彰

第46回広島県生協大会

第46回広島県生協大会 2018 市民の集い



虹のコーラスの歌声で市民の集いが始まる



市民の集い会場風景



市民の集い



祝辞を述べる広島平和文化センター岩崎常務理事



開会の挨拶をする広島県生協連岡村会長



閉会の挨拶をする佐久間理事長



活動報告をする前田事務局長

金崎由美氏

●プロフィール

1970年生まれ。北海道出身。
1989年北海道大入学（法学部）。1995年中国新聞社に入社。岩国総局、東京支社編集部、論説委員室などを経て2014年から編集局ヒロシマ平和メディアセンター。被爆65年と70年の企画連載などを担当。2017年、連載「グレーゾーン 低線量被曝の影響」で科学ジャーナリスト大賞を共同受賞。



記念講演

10月17日（水）、第46回広島県生協大会に引き続き、2018「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いが広島市中区の広島Y.M.C.A.国際文化ホールで開かれた。

会は、生協ひろしま虹のコラスのオープニングコーラスでスタート。主催者として広島県生協連合会岡村信秀会長理事が挨拶、続いて（公財）広島平和文化センター岩崎静二常務理事が来賓として挨拶。

金崎記者は、国際的な現場からみた数々のエピソードと裏話を披露し、プロのジャーナリストの目の鋭さ、そして今後の核兵器なき世界の実現のヒントを聴講者に与えてくれた。

金崎記者の講演に続いて、「ヒバクシャ国際署名活動報告」が

次に、2018市民の集いを記念して、中国新聞社金崎由美記者が、「記者からみた核兵器なき世界の実現にむけて」と題する講演を行った。

金崎記者は、国際的な現場からみた数々のエピソードと裏話を披露し、プロのジャーナリストの目の鋭さ、そして今後の核兵器なき世界の実現のヒントを聴講者に与えてくれた。

市民の集いは最後に、広島県原爆被害者団体協議会佐久間邦彦理事長による会場の出席者へのお礼と今後の抱負の言葉で締めくくられた。（Y）

ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会事務局長（広島県原爆被害者団体協議会事務局長）前田耕一郎氏によつて報告された。

第46回広島県生協大会 2018市民の集い

記者からみた核兵器なき世界の実現――

「戦争も核兵器もない平和な世界を」 市民の集い

【講演内容要約】



昨年は、核兵器禁止条約が国連で採択された画期的な年でした。そして、ノーベル平和賞は、核兵器禁止条約の成立に尽力したICANに。平和賞授賞式での日系カナダ人被爆者のサーキー節子さんの演説は、実際に感動的で画期的なものでした。現在、核兵器禁止条約を批准した国は69カ国、この条約が採択されて、核兵器全面禁止の道筋が見え、ヒロシマのビバクシャにとって大きな光明となりました。

しかし、この条約に日本は参加せず、世界の国々から批判されました。世界で最初に被爆した日本だけに、核兵器禁止条約に参加しないことは、日本国民にとって実に哀しいことです。

核兵器禁止条約が採択されたことは言つても、世界の核保有国は世界の動向と全く逆行する方へ進んでいます。つい先だって、アメリカの臨界前核実験が5年ぶりに行われたというニュースは世界の人々にとって衝撃的な出来事でした。

記念講演

講師 金崎 由美氏

中国新聞社記者

世界唯一の被爆国である日本の核兵器禁止条約への不参加表明、政策を変えない頑なさ。アメリカの核の傘の下にいる事情はともかく、取材の裏側で海外のメディアは、「日本政府ほど表と裏が違う国はない!」と評しています。日本人として恥ずかしく情けない限りです。

取材で、アメリカの原爆開発（マンハッタン計画）の拠点であつたネバダ州のロスアラモス（現在は国立公園になっている）を訪問した時、現地の資料館では、そこで作業した人たちの努力と苦労の思い入れは十二分に表示していました。しかし、その人達に広島・長崎への原爆投下の事実は知らされておらず、その悲惨さももちろん知られていませんでした。案内してくれた人たちはヒロシマ・ナガサキはおくびにも出せないといふ状況でした。そして、「原爆投下が長く恐ろしい戦争を終結に導いた」と信じきっている。

それが核を持ち使用したアメリカの現実です。

2018年のストックホルム平和研究所のイヤーブックは世界の核戦力は引き続いて、減らし方が遅い、その一方で、核兵器の「近代化」は続いている。では、どうすればいいのか? 現実は厳しい状況です。原爆投下によって終戦となつたと言う米国。また、戦争の悲惨さを知っている人が減っていく「被爆地」と「被爆国」。1945年8月6日と9日のキノコ雲の下でどんなことがあつたかということが、世界の人々に伝え続けられています。これが大事だと思うのです。現状では、核兵器禁止の運動は、高齢化したヒバクシャの方達に頼り過ぎだと思うのです、出来るだけ多くの人を巻き込み、多角的にあの日に起つたことを、世界の人たちに知つて貰うことが、平和への道につながることが、私は思います。そうすることによって、世界の人々が監視役となつて、核保有国、核を持とうとする国に「待った!」をかけることができるはずです。

協同組合まつり 大試食会開催



大人気のお好み焼き



毎年好評の青果市

10月21日（日）、尾道市因島アメニティー公園において、「2018協同組合まつり」を開催しました。昨年は、台風の影響による大雨のため中止となりましたが、今年は雲一つない晴天に恵まれ、組合員、地域の皆様約1800人（主催者発表）



元気いっぱいフットサル大会

家庭会模擬店では、お昼前になるとどうん、焼きそば、お好み焼き、たこ焼き等、長蛇の列ができ、皆さん手際よく対応し

協力をいただき、「骨密度測定」「健康相談」等行っていただきました。

に来場していただきました。

当日は、家庭会組合員さんに

よる模擬店、JA尾道市、因島市漁協、納入業者協力会による即売会、また、因島総合病院に

間で完売、今年も大好評でした。

協同組合まつり会場の横で

は、「第5回日立因島生協杯フッ

トサル大会（小学低学年対象）

を同時に開催し、父兄、おじい

ちゃん、おばあちゃんの声援を

受け、子どもたちは元気いっぱい

いボールを追いかけピッチを駆

け回り、私たち

にも元気を分け

てもらいました。

限られた時間

でしたが、組合

員、地域の方々

との交流ができ、

大変有意義な一

日「平成最後」

の協同組合まつりとなりました。

（報告：日立造船因島生協理事長
島生協神野理事長）

2018協同組合まつり開催！

大試食会GREENマルシェ開催

グリーンコーポ生協ひろしま

グリーンコーポ生協ひろしま



みんなが力を合わせて大成功！



元気くんも大活躍



会場は大賑わい！

では、9月29日（土）に広島市中小企業会館にて設立25周年を記念して「大試食会GREENマルシェ」を開催しました。

前日から台風が接近していましたので開催が危ぶまれました。

したが、来場目標の1,500名に対して、来場者数は約1,700名と目標を上回り、大賑わい！メーカー・生産者の方々38社にお越しいただき、試食品の提供や特価での販売を行いました。どのブースも完売御礼とな

りました！また、来場された方々は会場内でゆっくりと過ごしていただけた様子で、メー

カーフの方々と組合員の交流がしっかりと行われていました。

ステージなどでは、地域の方々による太鼓やハンドベルの演奏、赤ちゃんはいはいレースの開催など、会場内が1つになるイベントになりました。

今回、多くの方に来場いただき、グリーンコーポのこだわりを実感していただけた1日になったと思います。

（報告：グリーンコーポ生協ひろしま
金築専務理事）

協同ふれあいまつり 2018 介護事業セミナー

「介護事業セミナー」を開催するにあたり、
「介護人材の確保と定着について考える」
をテーマに、広島県生協連では、福祉・介護委員会の取組みとしてトップ層を対象にした介護の事業戦略セミナーを毎年開催しています。今年度は9月21日に開催。介護事業における喫緊の課題である人材確保と育成について、全国と各都道府県の介護人材実態調査を行っている介護労働安定センター広島支部長の坂本尚己氏を招いて、県内の実態調査結果や他法人の取り組み事例について報告して頂きました。

「介護事業セミナー」を開催するにあたり、「介護人材の確保と定着について考える」をテーマに、広島県生協連では、福祉・介護委員会の取組みとしてトップ層を対象にした介護の事業戦略セミナーを毎年開催しています。今年度は9月21日に開催。介護事業における喫緊の課題である人材確保と育成について、全国と各都道府県の介護人材実態調査を行っている介護労働安定センター広島支部長の坂本尚己氏を招いて、県内の実態調査結果や他法人の取り組み事例について報告して頂きました。



講師の坂本広島支部長

性を感じたという声があつた。福祉介護委員会では、4生協の介護人材確保・育成について今後も連携や共同をすすめています。

(報告：広島県生協連 岡崎晃)



会場の様子



ふれあいセンター協同の外観

10月28日（日）広島医療生協
ふれあいセンター協同にて「協同ふれあいまつり2018」を開催しました。毎年まつりを開催するようになつて10年以上になりますが、今年は天候にも恵まれ過去最高の550名の参加者で賑わいました。地元の組合員さんを中心に7月から実行委員会を立ち上げて準備を重ね、舞台へは15団体が出演、出展ブースには20店舗が軒を並べました。

特に医療生協ならではの健康チェックコーナーは順番待ちのチエック

協同ふれあいまつり2018

広島医療生協

大盛況で、血压チェック、体温測定、足指力チェック、骨密度測定とみなさんその結果に一喜一憂されていました。また、来たついでにと介護に関する相談をされる方もおられました。すっかり地域に定着してきたまつりと言えるようになり、また来年という声も参加者から聞こえるようになつてきました。

今後も、楽しみながら健康づくりに役立つまつりを開催していくかと思います。

(報告：ふれあいセンター協同
事務長 藤代えり)



さまざまな発表があったステージは満員盛況でした

消費者のつどい

- 日 時 2018年11月28日(水)
13:30～16:00(13:00開場)
- 会 場 サテライトキャンパスひろしま大講義室
(広島県民文化センター 5階)
- 内 容 第1部 消費者団体報告
第2部 講演「金融商品との上手な付き合い方」講師：倉橋考博 氏

★お問い合わせ・お申し込みは、広島県生協連まで《両日とも参加費無料》

介護の日フェスタ

- 日 時 2018年11月25日(日)
10:30～16:00
- 会 場 ヒロシマ県立体育馆(グリーンアリーナ)
- 内 容 《ステージ》元TBSアナウンサー 渡辺真理さんのトークショー、神楽等。
《会場》グルメコーナー、フリーマーケット、介護ロボットや福祉用具の展示等。

広島県庁からのお知らせ 消費者ネット広島情報 理事会・委員会報告

広島県庁からのお知らせ

「ひろしま県民テレビ」放送中！



小嶋沙耶香アナウンサーが県内各地の現場からリポートし、県の情報を分かりやすくお伝えします。11月は豪雨災害からの「復旧・復興」をテーマに番組を放送します。

また、「ひろしま県民テレビ」とコラボレーションした「特別番組」も随時放送中です。詳しい番組内容は、広島県ホームページをご確認いただけます。

「ひろしま県民テレビ」放送日
19・54～20・00（月2回金曜日）
再放送／1・45～1・50（月2回土曜日）、
11・55～12・00（月2回日曜日）、
5・20～5・25（月2回金曜日）

広島ホームテレビ（5ch）☆ぜひご覧ください。
（過去の放送番組は「ひろしま県民倉庫」でご覧いただけます。）

消費者ネット広島情報

消費者トラブルの手口を知りうつ⑩



近年、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあつたときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

思いがけない高額請求

チラシを見て頼んだ廃品回収（2018年9月4日独立行政法人国民生活センター見守り新鮮情報第317号）

【事例1】

他県に住む親がチラシを見て、廃品回収を事業者に依頼した。

チラシには「廃品回収代金が8万円」と書かれていたが、実際には47万円請求され、支払ってしまった。

（当事者：80歳代 男性）

不用品の処分をしてもらおうと、投げ込みチラシの事業

者に電話をすると「費用は3万円くらい」と言わされたが、来訪すると30万円を提示された。高いとは思ったが、仕方なく支払った。（60歳代 女性）

【事例2】

（消費者ネットトライアングル）

●開催日 9月27日

■出席 理事18名中15名出席

■決議事項

- ・2018年北海道胆振東部地震緊急支援募金について
- ・他団体の公職承認について
- ・他団体の協賛・後援について
- ・2019年度広島県への要請事項について
- ・広島県との包括連携協定の取組について
- ・第46回広島県生協大会について
- ・平和活動報告
- ・トップケーススタディ研修の実施について
- ・ヒバクシヤ国際署名広島県推進連絡会の取組報告

理事会・委員会報告

第2回理事会報告

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| ■開催日 9月27日 | ■出席 理事18名中15名出席 |
| ■決議事項 | |
| ・開催日 10月24日 | ■主な協議・報告事項 |
| ・2018年度平和活動の上期の振り返りと下期（今後）の取り組みについて | ・平成30年度食品の表示ウォッチについて |
| ・国際平和デー企画報告 | ・消費者のつどい2018の開催について |

■「ヒバクシャ国際署名」に思いを寄せて

被爆者を二度つもららない。それは、核兵器の廃絶以外にない。

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」通称「ヒバクシャ国際署名」は、2016年4月のスタートから二年半が経過しました。2020年を目指し世界で数億筆の署名を集め、核兵器のない世界をめざします。

兵器を禁止する条約を結ぶことを全ての国に求めます」という被爆者の訴えが共感を呼んでいます。昨年7月7日、国連において核兵器禁止条約が122カ国賛成で採択されました。私達は核兵器廃絶への具体的な第一步であり、画期的な条約として大歓迎しました。核兵器廃絶へ一步でも近づけるためには、



広島県原爆被害者団体協議会 理事長

佐久間 邦彦
さくま くにひこ

●プロフィール

1944年、広島市に生まれる。2005年、三菱重工広島製作所定年退職。2006年、広島県被爆者相談所相談員となる。2015年、広島県被爆者相談所相談員となる。2018年、ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会共同代表

被爆地広島では、「ヒバクシャ国際署名」を幅広く呼びかけようとして今年3月19日、ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会を立ち上げました。2020年までに県民の約過半数140万筆を目指して取り組んでいますが、2018年9月20日現在、広島県内の署名数は43万725筆です。広島県推進連絡会に現在加入されている個人及び賛同団体の皆さん、そして今後新たに加入される賛同団体の皆さんと共に「ヒバクシャ国際署名」への一層のご協力を願いし、被爆者を二度つもらないこと、そうするには核兵器を廃絶する以外ないことを訴えていきたいと

核兵器禁止条約の早期発効に向けて多くの国際署名を集めなければならぬと思っています。

「ヒバクシャ国際署名」のスタート後、2016年9月29日から10月6日までIPBベルリ

ン世界会議・被爆者遊説代表団（7人）の一員としてドイツにて核兵器禁止条約が122カ国賛成で採択されました。私は被爆体験を語り、「ヒバクシャ国際署名」への協力を呼びかけました。ベルリン工科大学で開催されたIPBの国際会議で私は被爆体験を語り、「ヒバクシャ国際署名」への協力を呼びかけました。自治体訪問はボン市庁舎とフランクフルト市庁舎を訪れました。両市とも市長は不在で副市長が対応され、こ

の場でも被爆体験を語り日本での国際署名の取り組みや脱原発などについて意見交換をしました。そして私達が、国際署名を呼びかけると賛同されサインをしてくださいました。そのほか地元高校生を対象に被爆証言を行ったところ、ほとんどの生徒そして先生方も「署名します」と言われ、核兵器廃絶の声が僅かであるけれども届いたかと思ふと、広島からドイツまで来た甲斐があつたとつくづくと思いました。

【編集室から】

一年に6回、2カ月ごとにこの広報誌は発行されてきた。早いもので、私がこの広報誌に携わって約6年、30巻を超える発行を見た。その号の編集制作を終えて入稿・印刷を完了して発行すると、すぐには次号の「企画・編集会議」を開いて制作を進行しなければならない。新聞や週刊誌に比べれば、編集制作の日数と時間はある。が、一つの号の編集制作を終えて入稿・

平和とよりよき
生活をめざして

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11
第7ウエノヤビル5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp

▼新聞や週刊誌に比べれば、編集制作の日数と時間はある。が、一つの号の編集制作を終えて入稿・印刷を完了して発行すると、すぐには次号の「企画・編集会議」を開いて制作を進行しなければならない。新聞や週刊誌に比べれば、編集制作の日数と時間はある。が、一つの号の編集制作を終えて入稿・印刷を完了して発行すると、すぐには次号の「企画・編集会議」を開いて制作を進行しなければならない。今号は、「木守り(柿)」の写真、果たして読者に気に入っていたらどうぞ。(Y)

11